

## 11月6日(金)に第2回郷土史教室を実施

### 雫石地区の史跡巡りに24人

町教委と当史談会の共催事業である郷土史教室（27年度第2回）を、晩秋の11月6日(金)に雫石地区で実施しました。この教室は毎年秋に町内四地区を順に回って行っています。この日参加したのは24人の町民で、うち当会会員が9人でした。ほかに町教委から2人が同行しました。＜秋田街道に沿って発展 ―雫石地区の歴史と文化を訪ねて＞と銘打った今回の歴史教室で訪れた主な場所をご紹介します。



かつての盛岡城下と秋田の久保田城下を結んだ秋田往来（秋田街道）。雫石はその沿線に発達した町です。今回はこのうち、長山街道分かれ付近から高前田一里塚までのおよそ8km（二里）の区間の神社仏閣や史跡を6時間ほどかけてバスで巡りました。

●最初は町の東のはずれ仁佐瀬の長山街道分かれにある明和6（1769）年に建立された道標の石碑を見学しました。碑面に「右 長山道」「左 秋田往来 是より左三丁程行沢内往来」とあります。「長山道」はかつて西山方面から盛岡への年貢米の運搬道であり岩手山神社への参詣道でした。また300メートル余り先で沢内往来と分岐する（現在の繁十文字付近）とあります。盛岡方面から来ると雫石郷の入口として重要な場所です。

●現在の「東町」は昭和47年、御所ダム建設に伴う水没者移転地として町有地に造成された町です。この地には昭和27～38年まで「県立工芸作物原種農場」がありました。県の技師が常駐し麻類、こうぞ、みつまたなど工芸園芸作物の栽培技術の研究や指導を行っていました。38年4月、その跡地に町の農業青年研修所が設置され、多くの農業青年が共同生活をしながら研修に励みました。同研修所は昭和50年に高前田の「町農業者トレーニングセンター」に移転しましたが、ここは雫石の近代農業の濫觴(らんしょう)の地です。



左・かつての＜原種農場＞＜農業青年研修所＞があった場所〔現在は東町にある町消防団第一分団第四部の消防ポンプ車屯所前（コンビニ・ローソンの向かい）〕で説明を聞く参加者。

●七ツ森町有林の一つ生森（おもり）のふもとは、盛岡城下から数えて3つ目の生森一里塚があります。南北2基がほぼ完全な形で残存する貴重な道路交通遺跡です。

また、一里塚から少し離れた生森山中には「七ツ森払い下げ顕彰碑」があります。昭和25年に建てられたこの碑は、雫石町の歴史の中でも重要な＜国を相手に運動を展開し見事成功した＞払い下げの経緯を詳しく記しています。

●下町東地区にはかつての雫石城の跡に建つ「雫石八幡宮」があります。豊臣秀吉の時代に城は破却されましたが、境内では城跡を物語る中世の「空堀（からぼり）の跡」を見ることができます。南部藩時代のはじめに代官所がおかれた記録がありますが、その後は八幡宮として人々の信仰を集めてきました。

●通称「下寺（しもてら）さん」と呼ばれる曹洞宗 石水山永昌寺。380 年余の歴史を持つこの寺の境内には、明治 3(1870)年の廃仏棄釈まで七ツ森の主峰「生森」山頂にあった生森子安地藏尊が遷座して地藏堂が建てられています。この地藏尊には興味深い「三姉妹伝説」が残されています。同寺の隣接地に「龍勝寺」という天台宗の寺院がありました。ここの第一世龍海上人は秋田街道の難所仁沢瀬川に架橋したことで知られています。

永昌寺境内にある生森子安地藏堂の前でご住職の藤本達也さんがご説明。龍海上人供養のための卵塔と思われる墓石も案内してくださいました。



●下寺さんの向かい側にある坂道は「館坂（たてさか）」、坂の下には「名子道（なごみち）」と呼ばれる古い道があり、現在も使われています。館坂は文字通り「雫石の城＝館」へ登る坂道です。名子道は、中世の名子制度によって形成された名子たちの住む集落への道を指すと思われます。「名子」の地名は現在「字名」として残っています。さらにこの名子道は秋田往来が仁沢瀬～板橋～黒沢川のルートをとる以前、現滝沢市の篠木坂峠を越えて外山（とやま）集落から現小岩井駅前を通過、沼返から雫石に入るルート上にあり、古い時代の秋田往来の道であると見られています。

●雫石駅南にある「星の駅団地」は、平成 12 年 6 月から 85 区画の分譲を開始。平成 9 年の秋田新幹線の開業に向けて、駅の南北両面開発のために J R 雫石駅と町の施設「雫石銀河ステーション」が合築され、その自由通路を使って行き来できるようになりました。この団地ができる前、ここは雫石営林署の広大な木材置き場があり、民間の製材工場が建っていました。すっかり生まれ変わったこの場所には、今ではすでに 80 戸近くの住宅が建ち並び、若い世代の住民たちが数多く住んでいます。

●通称「中寺さん」は、臨済宗の恵照山（えしょうさん）臨済寺が正式名称です。今から 350 年前の創建と伝えられています。この寺は幕末の戊辰戦争の際に、急きよ盛岡から秋田に転進しようとした当時の奥羽鎮撫総督九条道孝公一行の宿舎になったことで知られています。また、高台にあるこの寺は南西からの涼風を受けやすく江戸時代に選定された「雫石八景」の一つとして〔恵照山の納涼〕の風景地となりました。



また、旧秋田往来からこの臨済寺までの参道が公式な「旧沢内街道」となっており藩公も通られています。沢内街道はここから現雫石駅の方角に下り、南田んぼを通り雫石川を渡渉し、籬野の台地に登り、鶯宿（後に南畑）を通過して沢内まで行くルートです。

【写真上；臨済寺山門前の旧沢内街道で説明を聞く参加者】

## 商工会館前に説明板の建つ「雫石代官所」は、実はもっと奥に建っていた。

●雫石代官所は、藩政時代の初め天正 19(1591)年雫石城跡（現雫石八幡宮）におかれまして。その後幾度か変遷があり、最終的に現雫石小学校の隣、以前の雫石郵便局の所に建てられ明治維新まで続きました。現在「代官所跡」の説明板が建っている場所より 80mほど奥まったところでは、雫石駅に向かう今の道路は代官所への道（幅 2 間ほど）でした。（慶応 4(1868)年の雫石村絵図に「御役屋御構地」と記されています）。ちなみに旧町役場の跡、現在の小公園は代官屋敷の庭園だったそうです。その庭園の秋田街道寄りに「代官柏」と呼ばれる一本の柏の大木がありましたが、昭和 27 年に国道拡幅のために切られました。



これが少し前まであった「柏屋食堂・柏屋印刷」の名の由来となりました。こうしたこともあって現在の中町小公園には柏の木が植えられています。

●上町にある「三社座神社」は通称「お神明（しんめい）さん」と呼ばれています。三社座は「天照皇大神」「春日大神」「八幡大神」の三神を祭っていることからこう呼ばれます。この神社は江戸時代初期の元和元（1615）年に郡代の宮十郎左衛門が創建したとされており、明治 3(1870)年に雫石村社、翌 4 年に雫石、上野、御明神、橋場 4 村の郷社になりました。さらに明治 6(1873)年には雫石 10 カ村の郷社となり、大東亜戦争（第二次大戦）終了まで郷社としての祭典と産土神の祭典と年 2 回の祭典が行われていました。

ここの境内には実にたくさんの石碑が並んでいます。過去に合祀した神社にあった石碑がここに移されているものが多いのもその理由です。どうぞ一度ご覧になってみてください。

●次に訪れたのは上町（江戸時代は荒町といった）の「金毘羅神社」です。ここはかつての修験者「南学院」（現在は諏訪家）の屋敷地です。南学院は岩鷲山禰宜、雫石年行事田蔵院の役僧であり、雫石神楽の座元としても知られています。また、江戸中期から大正末期まで盛んだった雫石の「俳諧」を指導してきた家でもあります。11 代諏訪歌髓から三代にわたって町の教育や文芸の振興に寄与した功績は特筆に値すると思います。

●南学院屋敷の北側に長山の土樋の堰（田堰）から引水した「大水川」が流れてきており、ここで市街地の県道（かつての国道）の両側の側溝水路に流し込まれています。藩政時代の絵図にもこの水路が描かれており、「綾織越前広信」の雫石城築城物語を裏付けるのではないかと考えられます。

●南学院屋敷前を過ぎると雫石町（第一地割）「高前田」に入ります。藩政時代はほとんど人家はなかったようです。現在のリアス観光の付近には、かつて南部藩公の馬が斃れた場所に建てられたといわれる「蒼前堂」があり、その付近は大湿地帯で「雫石歳代日記」に「蒼前堂前大ぬかりにつき秋田往来通行不能」と書かれており、う回路である八卦新道を作ることになった場所です。一昨年平成 25 年 8 月 9 日の水害の際にも大出水しました。

●その先には、盛岡から数えて 4 つ目の「高前田一里塚」があります。ここが秋田往来の雫石村の終点となります。一里塚の左側の塚は、ここ 15 年ほどは回りにある私有の杉林が成長し、だいぶ目立たなくなっています。

●「雫石歳代日記」によれば、この塚の付近に「高前田の刑場」があったとされ、嘉永 3（1851）年 11 月の「山人夫毒殺事件」の下手人がここで磔（はりつけ）の刑に処せられた、と記録されています。

### 郷土史教室の当日配布資料をホームページにアップします！

以上が 27 年度第 2 回郷土史教室の見学場所のあらましですが、共催者である雫石町教育委員会の了解が得られましたので当日資料を HP にアップします。ご覧ください。

## ＜戸沢サミットin仙北＞に当町から40人

### いよいよ来年は雫石で開催！



今年で第3回となる「戸沢サミット」が、8月17(月)～18日(火)の2日間、お隣の秋田県仙北市で開催されました。当史談会と戸沢サロン等、雫石八幡宮講中から過去最大の40名が参加しました。

今回のサミットは、毎年恒例の「戸沢氏祭」と同日開催されました。戸沢氏祭には戸沢サロンの皆さんが毎年参加しており今年も大勢の地区民が参加してくれました。

【写真；来年の開催地として引継ぎを受けた深谷雫石町長】

#### 〔報告①〕 仙北市での事前学習で「戸沢氏の出自と羽州進出」について学ぶ

今回が3回目となる戸沢サミットに、これまで最大の40人という参加者で臨んだ。

初日は「戸沢氏祭」、「戸沢サミット」のいずれも午後からの日程であったので、午前中に戸沢氏についての「事前学習」として、元秋田県立博物館副館長で戸沢氏に関する著作がある加藤 民夫氏（現在・秋田県公文書館嘱託）を招へいして講演会を開催した。当町からの参加者のほか、北浦史談会及び西木町文化財愛護協会の会員ら合わせて15名ほども聴講し、盛況であった。講師の加藤氏は戸沢氏の出自について「平家の落人」ではないかとし、奥羽に逃げのび、やがて藤原清衡ら藤原三代の庇護のもとに“一開発領主”として力を蓄え、その後滴石一帯を領するまでになった一族ではないかと推定した。

加藤氏はさらに＜戸沢氏がやがて滴石から旧田沢湖町の鳳仙岱（宝仙岱とも）に移り、その後旧西木村の上戸沢、門屋に進出し“国人領主”となった＞経緯を、自身が秋田県公文書館職員時代に研究したレポートをもとに分かりやすく説明した。

また、今回のサミット会場での仙北市 熊谷 徹教育長の講話でも戸沢氏の出自・動向について同様の見解が述べられた。

このことは、雫石町及び西木村での伝承と大筋で同じであり、雫石町教育委員会が平成24年に発行した「町誌資料第5集 中世の雫石と戸沢氏」の内容とも大きな相違はなく、当会が高萩市及び新庄市での過去2回のサミットで紹介してきた「雫石の戸沢氏紹介DVD」、「戸沢氏始祖の衡盛、兼盛父子の寸劇」内容を裏付けるものであり心強く思った。

一方戸沢氏祭は、夕方から雨天となり、桧木内川河川公園での雫石サミットPRの「雫石・細川会」の民謡舞台発表は、観客は多くはなかったものの、見事な演舞で大いに雫石サミットをアピールしていた。

来年11月には旧新庄藩主戸沢家のご当主を雫石に迎えて「第4回戸沢サミット in 雫石」を開催する。町当局、教育委員会と連携しながら成功に導かなければならない。

**次号では、サミットに向けた取り組み計画について紹介します。**

お知らせ

当会主催；27年度第1回 歴史講座（町民公開）

テーマ 「戊辰戦争殉難者五十年祭 原 敬」

講師；前 原敬記念館館長 木村 幸治 先生

★日時；28年2月11日（祝）14：00～15：30

★会場；雫石町中央公民館2階視聴覚室

★入場料 200円（史談会員は無料）